

鮮コーポレーション株式会社

2019年1月号
No.217

今月の社内報【コンテンツ】

■年頭のあいさつ
■リレーメッセージ ・わたしのVIVID
■ホノルルマラソンへの道 総編集
発行 鮮コーポレーション株式会社
本部企画室

広島県庄原市西本町2-18-8 新興ビル 4F
Tel (0824)72-0135
Fax (0824)72-6738
http://www.v-style.co.jp
e-mail nisida@mocha.ocn.ne.jp

鮮コーポレーション 社内情報

節分巻き
味わい深い具を
錦糸玉子で優しく包み
一本一本でいいね!
巻きました

節分
2月3日(日)
1(金)・2(土)も
お渡しできます

予約締切
一月二十五日金
までです。

**西田鮮魚店の
汐いわし**
節分巻きと
一緒にどうぞ。

海鮮大名巻き

スマホで簡単! WEB予約
わかりやすく写真も入って
注文しやすくなります→
お客様にもおすすめして
ぜひスタッフの皆さんも
ご利用下さい。

年頭のあいさつ
2019年を
ターニングポイントの年に
代表取締役 西田昌史

あけましておめでとうございませう。
新しい年が始まるというだけではなく、
新しい時代が始まるのが2019年です。
昨年、天皇陛下の譲位が行なわれ、
元号が変わることを
安倍首相が表明しました。



新春1月4日 本部にて

奇しくも、
何年前から、
私は2019年を
社長交代の年と宣言してきました。
このタイミングで元号が変わることに、
私は鮮コーポレーションの強運を覚えます。
明治・大正・昭和・平成と、
振り返れば元号にはその時代、時代の顔があります。
元号が変わることは、時代が変わることにほかなりません。
社長が変わることは、会社がかわることにほかなりません。
66才の社長から32才の社長に変わる。
これほど分かりやすい変化はありません。
「持っている」と最初に自分を表現したのは
本田圭祐だったと思います。
本田は何を「持っている」と言ったのか。
それは「強運」です。「強運を持っている」と言ったのです。
私は、鮮コーポレーションも
「持っている」と感じるのです。

興味深い偶然があります。
1979年。
庄原ショッピングセンター「ジョイフル」へ出店。
私が27才の時でした。
年商1億円にも満たない、
たかが10坪ほどの「西田鮮魚店」が超繁盛店へと変貌。
この時の父の決断が、私の人生を変えたのです。
1989年。回転寿司1号店「すし家族三次店」出店。
私は37才でした。
鮮魚小売り業から飲食業に進出。
同時に、多店舗舗化への布石でもありました。
1999年。「すし鮮西条店」開店。私は47才です。
この店が爆発的な超繁盛店になり、広島県下に名前が知れ渡り、
今に繋がります。
私たちは飛躍への大きな道を歩み始めたのです。
あれから20年。
2019年。社長交代。私は67才になります。
ここでひとつ確認しておかなければいけないことがあります。
私たちは10年を区切り、次への飛躍を遂げました。
しかし、それは偶然ではなく、
また順調なステップでもありませんでした。
時代は10年で変わります。繁盛は10年で終わります。
飛躍の前には、いつも限界を感じ、停滞し、
不安の中にいる私たちがいました。
その不安・恐怖が私たちを突き動かし、
成長に導いてくれたのです。
今、鮮コーポレーションは、
あの頃と同じ不透明な世界にいます。
自らの手で、次代につなぐ足がかりを模索し、
つかみ取らなくてはなりません。
社長交代が、大きな推進力になります。
10年後、2019年が、
ターニングポイントだったと言える一年にしましょう。



鮮コーポレーションスポーツ

**2019年12月
ホノルルマラソン
参加者
募集中**

現在4名の参加者が決定!
残る2名の参加希望者を
募ります。

**第1回 2018年度
ホノルルマラソン参加
勇者達の
熱いレポートは裏面です!**

**サイクリング部
参加者も
同時募集中です!**

★どちらも興味のある方は
本部までお問い合わせください

リレー
メッセージ

「わたしのVIVID」
すし屋skie店 店長 西田 龍一

「もう俺に回ってくるの!?!」この「わたしのVIVID」の依頼が来たとき、社歴順にリレーをつなぐこのコーナーの順番が、まさか自分が回ってくると思っておらず驚きました。「村上カズ」の次、もう俺なの?」って感じでした。

考えてみれば鮮コーポレーションに入社して三年目、来年の二月で四年が経つことになりました。入社初日、「鮮コーポレーション」に凄まれて驚愕したのも、バッテリー号というクセが強すぎる車を与えられて絶句したのも入社一カ月、アラ処理場で「もういい!わいがやる!」と難波さんに怒鳴られて卒倒したのも、ついこの間のことのように感じます。

入社一年目は市場に行きながら、いろんな店舗に行き、現場の仕事を経験しました。社員もパートさんもアルバイトの子たちも皆、快く受け入れてくれ、不器用な私に優しく仕事を教えてくれました。不器用ゆえの失敗は仕事りあえず「遺伝です」と言いつつ、大概納得してもらっていました。「社長の息子、どんなやつだろう」とみんな思っていたと思います。が、同い年の山地さんからは「思っていたより良い人ですね」と謎のほめ言葉ももらいました(笑)。

二年目は日創研の研修で、月の半分は広島にいない生活でした。そこで同年代の後継者たちと学びを共にし、後継者としての覚悟や心構えを叩き込まれました。心と体を鍛えるため、六甲山56キロ縦走なんていう経験もさせてもらいました。社長のホノルルのように脚光を浴びることなく、こっそりやり遂げましたが、実は結構きつかったです。

そして三年目の今、すし屋skie店の店



長をさせていただいています。やらかすことも多いですが、レギュラーメンバーやパートさんに日々突っ込まれながらも、「すし屋skie」の魅力を世界に発信する!をスローガンに営業に邁進する日々です。

一年目は店舗に入るといつても大して役に立ってはいませんが、二年目はそもそも広島にすらいらない。しかし、今はがつり8時~23時!他の社員と同じように毎日店舗で働けること、三年目、ようやく本場の意味で鮮コーポレーションの仲間入りが出来たんじゃないかなと思います。

思えば三年間、毎年毎年が初めてづくしの文字通り「VIVID」な日々でした。そして2019年5月には、社長交代が明言されています。まだまだ初めてのだけの「新鮮な日々」になりそうです。「初めて」に挑戦して、これまでの自分とは違う自分を発見したり、できなかつたことができるようになったり;そういう経験は苦しいこともありますが、充実した日々です。人生も営業も「暇」鮮が一番幸いです。

鮮コーポレーションという会社を通して、私がたくさんの新しい経験をさせてもらったように、鮮コーポレーションに関わる人の人生がより一層「新鮮な日々」鮮やかな人生になるような刺激と彩りをたくさん作ってほしい。そんな経営者になりたいと思います。が!.....まずは「すし屋skie」の店長として、ご来店されるお客様が「ワンタフオー!」「マーベラスオー!」「ファンタスティック!」と感動していただけるようなお店にするために、日々努力していきます!

